

日本公開天文台協会による 公開天文台 100 周年記念 事業



宮本



澤田



米澤

宮 本 敦¹・澤 田 幸 輝²・米 澤 樹³

〈¹ さじアストロパーク 〒689-1312 鳥取県鳥取市佐治町高山 1071-1〉

〈² 摂南大学経済学部経済学科 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8〉

〈³ 紀美野町みさと天文台 〒640-1366 和歌山県海草郡紀美野町松ヶ峯 180〉

e-mail: ¹miyamoto.atsushi@city.tottori.lg.jp

1926 年 11 月 21 日、日本初の公開天文台（民衆天文台）である倉敷天文台が設立されて、2026 年で 100 年となる。公開天文台 100 周年を迎えるにあたり、基本情報および日本公開天文台協会のこれまでの取り組み、今後の計画などについて説明する。

1. 公開天文台 100 周年について

2026 年は日本初の公開天文台である倉敷天文台の設立から 100 年となる記念すべき年である。日本公開天文台協会（以下、JAPOS）では、「公開天文台 100 周年」として、様々な調査や企画を実施している。本稿では、その起点となる倉敷天文台の紹介と、JAPOS での活動事例について紹介する。なお本稿は、宮本ほか [1]、米澤 [2]、宮本・米澤 [3]、澤田ほか [4] の内容を大幅に加筆したものである。

1.1 倉敷天文台

倉敷天文台は、日本初の民間天文台（民衆天文台）として、岡山県倉敷市に 1926 年 11 月 21 日に設立された [5]。設立当時の体制は、山本一清が台長、原澄治が名誉台長、水野千里が主事、宮原節と中村要が台員となった（図 1、[6]）。

当時の天文台は官立の研究機関が中心だったが、倉敷天文台は「公開」を目的に設立された初



図 1 倉敷天文台開台時の関係者（倉敷天文台提供）

の天文台である。現在の倉敷天文台は原浩之理事長（写真 1）のもと、活動が継続されており、JAPOS の施設会員でもある。

倉敷天文台の設立当初の観測室は、スライディンググループであったが、のちに観測ドーム（現在は原澄治・本田實記念館）が増設されている。設立当初のスライディンググループ観測室は倉敷科学センターに移築されており、2024 年 3 月 11 日、



写真1 原浩之氏

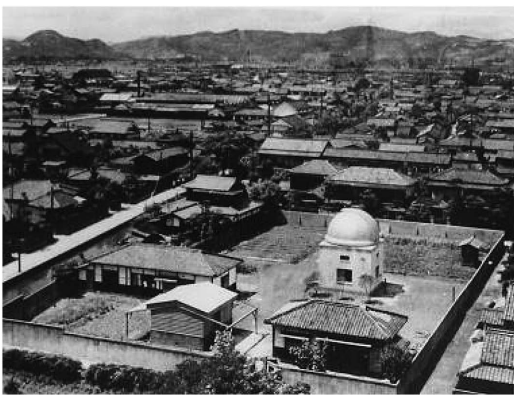


図2 戦後の倉敷天文台（倉敷天文台提供資料）

倉敷天文台およびスライディングルーフ観測室が日本天文遺産となっている（図2，[7]）。

設立当初に設置されていた口径32 cm反射望遠鏡（カルバー鏡，図3）と，後に整備された12 cm屈折望遠鏡（木辺成麿レンズ，図4）は，いずれも原澄治・本田實記念館に展示されている。

倉敷天文台で活躍した職員の一人である本田實（図5）は，1941年4月1日に台員として着任し，1952年に主事となった。生涯に12個の新彗星と11個の新星を発見し，国内外の天文愛好家に影響を与えた人物である。

1.2 そのほかの活動事例

個人所有の望遠鏡を使って公開活動を行った事例としては，藤井天文台がある[8, 9]。

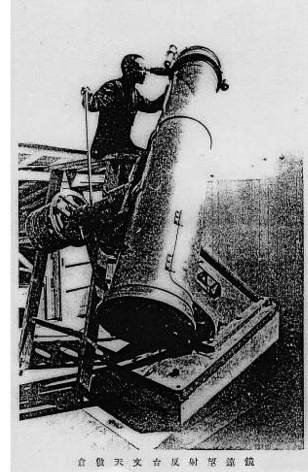


図3 倉敷天文台のカルバー鏡（倉敷天文台提供資料）



図4 12 cm屈折望遠鏡と原澄治（倉敷天文台提供資料）

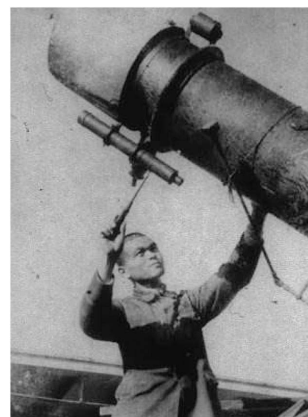


図5 本田實（倉敷天文台提供資料）

藤井天文台は、滋賀日報社長（当時）の藤井善助が口径16 cm屈折望遠鏡を購入し、来訪者に星を見せていたことから始まっている。1920年12月には、山本一清（当時京都帝国大学助教授、現在の東亜天文学会の創立者）が、藤井のもとを来訪したという記録がある[9]。1922年2月からは、毎週月曜日に山本が来訪し星の話をおこなっていたことが、滋賀日報の記録に残っている[9]。藤井は当初、来訪者があるごとに望遠鏡を外に出していたが、自分が不在のことを考えて1921年にドームを設置した[9]。

藤井天文台の情報は、幸い新聞記事（滋賀日報）が残っていた[9]。他にも同様の事例がある可能性あり、活動事例が埋もれているかもしれない。JAPOSでは、後述する「公開天文台100周年記念事業調査・編纂WG」を発足させ、公開天文台に関する史的資料の収集や保存を進めている。

2. JAPOSでの取り組み

「公開天文台100周年」について、JAPOSでは、委員会と各種ワーキンググループ（以下、WG）を設立し、それぞれに組み組みを行っている。既に、公開天文台99周年を祝した「公開天文台99周年記念イベント」を実施した[10]。本章では、JAPOSでの取り組みの一部を紹介する。

2.1 公開天文台100周年記念事業委員会

公開天文台100周年記念事業全般を実施するために、2023年9月にJAPOS内に設立された委員会である（以下、委員会）。JAPOS公式ホームページ内に「特設サイト」を開設しているのので、詳しくはそちらをご覧ください（図6、[11]）。

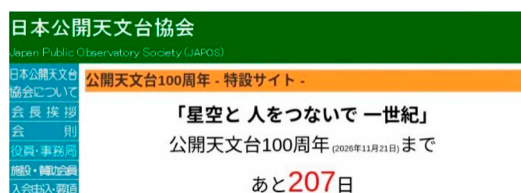


図6 公開天文台100周年特設サイト[11]

2.1.1 公式キャッチコピーとロゴマーク

公開天文台100周年をPRするため、キャッチコピーとロゴマークを作成した[12, 13]。

キャッチコピーは、2024年8月1日-31日までの期間、一般から広く募集を行った。応募総数は318件に上り、その中から公開天文台100周年記念事業委員会が7作品を選出、最終的にJAPOS会員による投票を経て、岡山県の岩中幹夫氏が考案した「星空と 人をつないで 一世紀」に決定した。

岩中氏からは「このたびは、輝かしい賞をいただき、誠にありがとうございます！今後も、公開天文台が星空と人のよき結び手であり続けることを祈っています。この賞に関わられたすべてのの方の行く先に、星の輝きがあらんことを」というメッセージが寄せられている。この決定結果は、JAPOSのWEBサイトでも掲載され、広く周知されている[13]。

また、公開天文台100周年記念事業であることを明確にし、その認知度を高めるため、記念公式ロゴマークの作成を行った。JAPOSの公式ロゴマーク作成委員会への依頼と複数案の検討を経て、公開天文台100周年記念事業委員会内で複数案の統合し、キャッチコピーの位置やフォントの調整を行い、記念ロゴマークを制作した[12]。

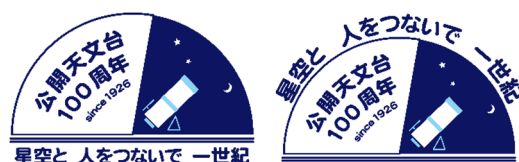


図7 公開天文台100周年記念公式ロゴマーク[12]



図8 JAPOSのロゴマーク

完成したロゴマーク（図7）は、ドームが開かれ、実際に空を観察しているような光景が特徴的である。このデザインは、2024年に作成されたJAPOSの公式ロゴマークに類似しており（図8）、100周年イベント終了後も共通のブランドイメージを保持することで、両者間の相乗効果が期待される。策定されたロゴマークは、後述する公認企画などでの積極的な活用を期待している。なお、このロゴマークは公開天文台100周年記念事業の周知および公認企画で使用できる。

2.1.2 公認イベントの募集

JAPOSでは、全国の公開天文台や関連団体、市民グループ等が広く「公開天文台100周年記念事業」に参画し、天文普及活動を一層活性化させることを目指して、「公認イベント」を募集している[14]。公認イベントはJAPOSの会員外からも広く募集しているが、以下の全ての条件を満たすことが前提となる。

- ・公開天文台100周年記念事業の趣旨に賛同し、その周知に繋がるものであること
 - ・天文普及のさらなる発展に寄与するものであること
 - ・営利・非営利は問わないが、公益性があること
 - ・公序良俗に反せず、反社会的勢力との関係がないこと
 - ・2027年3月末までに実施される企画であること
 - ・原則として、広く一般市民を対象とした企画であること
 - ・企画終了後に簡単な報告書を提出すること
- 公認企画の申請は、以下の手順で行う。
1. 「公認企画申請フォーム」[15]から、申請を行う。
 2. 公開天文台100周年記念事業委員会にて申請内容を確認する。
 3. 委員会より公認企画の承認に関する回答を、申請担当者宛に送付する。回答には2～3週間を要する場合がある。なお、JAPOS会員からの申請は、内容に不備がなければ速やかに承認の回答がなされる。

4. 申請内容について不明な点がある場合は、さらに詳細な企画書等の提出をお願いすることがある。
5. 委員会での確認の結果、条件に該当しない場合など、公認企画として承認されない場合がある。

なお承認後であっても、公認企画として不適切と判断された場合は、承認が取り消される場合があることに留意を要する。

公認企画が承認されると、以下のことが可能となる。

- ・企画名に「公開天文台100周年記念事業公認企画」の冠を付与できる。
- ・公開天文台100周年記念事業のキャッチコピーおよびロゴマークを使用できる。ただし、キャッチコピーおよびロゴマークの使用に関しては、ガイドラインに従う必要がある。
- ・公開天文台100周年記念事業のWEBサイトにて公認企画が紹介され、当該企画のWEBサイトへのリンクが掲載される。

また、公認イベントに応募する際には、以下の諸点に留意されたい。

- ・公認企画について、日本公開天文台協会または公開天文台100周年記念事業委員会が、資金的・人的支援を行うことはない。
- ・企画実施が確定した後、主催者・実施者から申請を行うこと。
- ・承認後、企画内容（企画名称、開催場所・日程等）に変更があった場合は、速やかに変更内容を連絡すること。
- ・次のような場合は、公認企画とならない場合がある。
 - 1) 新聞、テレビなどの報道、雑誌の記事など（公開天文台100周年の報道・周知を目的とした場合、公認企画でなくとも、届け出により公式キャッチコピーおよびロゴマークを使用できる）

- 2) 開催実態の確認が困難な企画
- 3) 公開天文台施設に影響を及ぼす可能性がある企画で、事前に対象施設の了承を得られていないもの

2.1.3 委員会企画イベント

委員会が主催する主な企画イベントは、以下の通りである。

2.1.3.1 ほしぞら総選挙

「ほしぞら総選挙」は、自身の好きな星座や天体、あるいは多くの人におすすめしたい星座や天体を投票する選挙型のイベントである [16]。投票結果に基づく順位付けに加え、投票時に好きな天体・星座にまつわるエピソードを募集することで、多様な物語や人々の想いを収集することも企画している。これにより、単なる人気投票に留まらない、参加者の感情に訴えかけるコンテンツの創出を目指している。

第1回の「ほしぞら総選挙」は、日本公開天文台協会 (JAPOS) 会員を対象に先行実施し、イベント運営の知見を蓄積した。その結果はWEB上で公開しているため (図9, [17])、参考にして欲しい。第1回の実施結果を踏まえ、現在は一般の方々も参加可能な「第2回ほしぞら総選挙」に発展させて、現在も実施中である [18]。

本イベントは、順位付けというわかりやすい形式を用いることで、天文学に馴染みのない一般市

民の関心も引きつけやすい内容となっている。また、公開天文台が持つ「星空や天体案内のプロ」としての強みを最大限に活かした企画であり、専門性と親しみやすさの両立を図っている。

さらに、参加者が投票という行為を通じてイベントに能動的に関わることで、星空や公開天文台に対する「自分事化」を促し、より深い愛着や興味を抱かせることを狙いとしている。

2.1.3.2 100周年記念SNSの運用

公開天文台100周年を迎えるに際して、新たにアカウントを開設し、情報発信を強化することで、公開天文台全体の認知度向上を目指す。

本SNSアカウント運用の主目的は、公開天文台100周年を記念した公認イベントや委員会企画イベント等の情報を集約し、効果的に発信することである。これにより、一般市民への公開天文台の認知度向上を図るとともに、各天文台が個別に運用しているSNSアカウントのフォロワー増加にも寄与することが期待できる。

具体的な運用は、Instagram (@obs_jp_100) と X (旧 Twitter/@obs_JP_100) に公式アカウントを作成し、情報発信を行っている。主な発信コンテンツとしては、各天文台のイベント告知、施設紹介なども盛り込むことで、多角的な情報提供を行う。また、共通ハッシュタグとして「#公開天文台100周年」と定め、各天文台のSNSでの発信も強化する。

2.1.3.3 みんなで見よう！メシエ天体

本企画は、日本全国の公開天文台が連携し、より多くの人々に星空観察の機会を提供することを目的とするものである。全国の公開天文台が一体となって参加することで、数の力を生かした広報効果と観察参加の広がりを生み出すことを目指す。実施期間は、2025年11月21日-2026年11月21日までの1年間である。

具体的な内容として、まず広報用ポスターを制作し、WEBページ上で公開する [19]。ポスターには、メシエ天体全体の概要に加え、季節ごとに



図9 第1回ほしぞら総選挙の結果 [17]



図10 みんなで見よう! メシエ天体のWEBサイト [20]

見ごろとなるメシエ天体がわかる情報を掲載し、観察への関心を高めるものとする。また、各施設で観察されたメシエ天体の種類、観察を実施した施設、参加人数などの情報をWEB上で可視化し、全国での観察状況を共有できる仕組みを整える(図10, [20])。さらに、各施設で撮影されたメシエ天体の画像を収集し、広報や学習などに活用できる素材として公開する。

加えて、「メシエマラソン記録ツール」を制作し、観察対象のうち何%を観察できたかを把握できるようにした(図11, [21])。観察の進捗状況については、ランキング形式の「Bar chart race」として動画編集し、YouTubeショート動画等でも随時公開することで[22]、参加施設や一般の人々が継続的に関心を持てるような発信を行う。

2.1.3.4 「今、天文台にいます」掲示板

「今、天文台にいます」掲示板は、観察会の参加者が自由に情報を発信し、参加者同士が交流できる場を設けることで、公開天文台100周年記念事業および各公開天文台のPRにつなげることを目的とする企画である。

具体的には、誰もが自由に書き込むことができるWEB掲示板を作成し[23]、観察会参加者や来館者が感想、発見、訪問記録などを投稿できる仕組みを整える。各施設には掲示板へアクセスするためのQRコードを掲示し、来館者がその場で画



図11 メシエマラソン 記録チェッカー [21]

像付きの投稿を行えるようにする。これにより、各地の公開天文台を訪れた人々の体験を可視化し、参加者同士の交流を促進するとともに、公開天文台の魅力を広く発信することを目指す。

2.1.3.5 一斉観察会

一斉観察会は、公開天文台100周年当日に、JAPOS会員施設を中心として全国的に同時観察会を実施することで、公開天文台100周年を記念するとともに、広く一般市民に星空に親しむ機会を提供することを目的とする企画である。

当日は、太陽系の惑星を全て観察できる機会になることから、昼の部では金星と水星、夜の部では火星、木星、土星、天王星、海王星の観察を行う。また、関連企画である「みんなで見よう! メシエ天体」のフィナーレとして、メシエ天体の観察も併せて実施する。これにより、全国の公開天文台が一体となって100周年を祝うとともに、惑星やメシエ天体の観察を通じて、参加者が天体観察の楽しさと公開天文台の魅力を体感できる機会とする。

2.2 公開天文台100年記念事業調査・編纂WG

本WGは、公開天文台100周年を迎えるに当たり、その記念事業における調査および100年史等の編纂を行うことを目的に設立された。本節では、WGの活動の概要について説明する。

2.2.1 先行研究の再検討

日本国内の公開天文台史が手際よくまとまったものに、黒田武彦氏による論考[24, 25]がある(以下「先行研究」)。「先行研究」は、望遠鏡の日本伝来から2000年代の国内における公開天文台設置の動向までがまとめられた優れた資料になっている。しかしそこでは、参考文献の掲載がなく、一部の文言や表現で加筆・修正が必要と思われる箇所が見られる。以上の点を踏まえ、WGでは「先行研究」にかかる資料の収集・保存、および「先行研究」の内容の再検討を進めてきた[26]。

黒田氏の論考[24]は全5節で構成されているため、各節をWGのメンバー内で分担して調査を進めた。また各メンバーが収集した資料は、PDF等で電子化し、著者らが管理するクラウド上で保存した。調査に際しては、天文ガイド編集部[27]、1978年の『天文月報』で通年特集として取り上げられた「天体観測施設めぐり」、東亜天文学会が編纂した「天文台&科学館めぐり」などを参照しながら、メンバーが独自で一次資料・

二次資料を収集した。「先行研究」で実名が挙げられている施設への内見調査も実施し、施設設置にかかる資料等を収集した(図12)。

2.2.2 WGによる成果物

「先行研究」の再検討結果を踏まえ、web版の「公開天文台年表：日本の公開天文台100年史」を作成した[28]。この年表には、施設名、都道府県名、運営ステータス(運営中/休館)、主力望遠鏡の口径、主力望遠鏡の種類(屈折/反射)、主な天文現象を盛り込んでおり、上下方向にスクロールすることで年代を追跡できる仕様になっている。なお、年表への記載年は「公開天文台の開設年」を基準とし、施設の移築等があった場合は最新年を採用した。

また上記の年表作成と並行して、各地の公開天文台の設置時期を視覚的に理解できるよう、「公開天文台データベース」を作成した[29]。日本国内では、1980年代-90年代にかけて「公開天文台ラッシュ」が生じたことが知られるが[30]、年代ごとの公開天文台の設置状況を視覚的に把握できる資料は限定的であった。「公開天文台データベース」では、グラフやマップなどを多用することで、全国の公開天文台情報を視覚的に把握できる仕様になっている。

なお、これらの制作物は『公開天文台要覧2024』のデータに基づいているが[31]、誤った記述になっている可能性もある。また各制作物のデザイン案も現状は仮版であることから、改善点や修正点等について皆様からご意見を頂戴したい。

3. おわりに

本年2026年は、公開天文台の源流となる倉敷天文台の設立から100周年という大きな節目を迎える。この100年の歩みは、星空と人々をつなぎ、天文学を社会に開いてきた多くの公開天文台と関係者の積み重ねによって支えられてきたものである。本稿で紹介した各種企画は、その歴史を

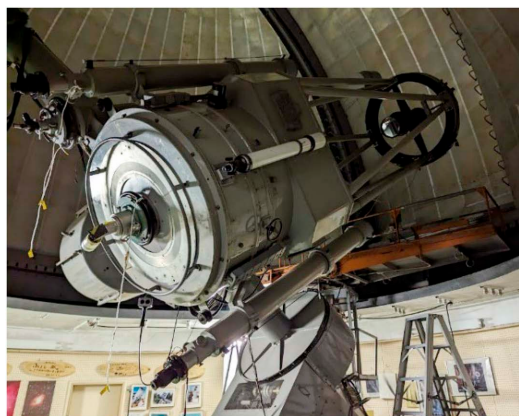


図12 ときがわ町星と緑の創造センターの望遠鏡(著者ら撮影)

振り返るだけでなく、これからの公開天文台の役割を広く発信する機会でもある。

公開天文台 100 周年を一過性の記念事業に終わらせるのではなく、全国の施設、関係団体、天文ファン、そして一般市民がともに参加し、星空に親しむ輪を広げる契機としたい。ぜひ多くの皆様より本事業の趣旨に賛同いただき、各地での企画実施や情報発信などを通じて、公開天文台 100 周年をともに盛り上げていただければ幸いである。

参考文献

- [1] 宮本敦ほか, 2024, 日本公開天文台協会第18回全国大会集録, 22
- [2] 米澤樹, 2024, 日本公開天文台協会第18回全国大会集録, 32
- [3] 宮本敦・米澤樹, 2025, 日本公開天文台協会第18回全国大会集録, 36
- [4] 澤田幸輝ほか, 2025, 日本公開天文台協会第18回全国大会集録, 29
- [5] <http://kuraten.jp/index.html> (2026.5.3)
- [6] 水野千里, 1929, 天界, 9(100), 377
- [7] 原浩之, 2024, 天文月報, 117(12), 740
- [8] 富田良雄, 2016, 第7回天文台アーカイブプロジェクト報告会集録, 7, 7
- [9] 天文台アーカイブプロジェクト, 2016, 第7回天文台アーカイブプロジェクト報告会集録, 7, 137
- [10] <https://www.koukaitenmondai.jp/100th/99th/index.html> (2026.5.3)
- [11] <https://www.koukaitenmondai.jp/100th/count.html> (2026.5.3)
- [12] <https://www.koukaitenmondai.jp/100th/logo.html> (2026.5.3)
- [13] <https://www.koukaitenmondai.jp/campaign/slogan/slogan.html> (2026.5.3)
- [14] <https://www.koukaitenmondai.jp/100th/event.html> (2026.5.3)
- [15] https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeHxeCvPEi2pV8tiQXs1Bnj2e_n_FCrModpckl0RKoWk6ZTyw/viewform?pli=1 (2026.5.3)
- [16] <https://www.koukaitenmondai.jp/100th/election/landing.html> (2026.5.3)
- [17] <https://www.koukaitenmondai.jp/100th/election/index.html> (2026.5.3)
- [18] <https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdzx63nw5yhFYDNG57rkybVp3nWlVkJrSx3hANJaI9xBwIyJw/viewform> (2026.5.3)
- [19] <https://www.koukaitenmondai.jp/100th/messier/poster.html> (2026.5.3)
- [20] <https://www.koukaitenmondai.jp/100th/messier/index.html> (2026.5.14)
- [21] https://www.koukaitenmondai.jp/100th/messier_checker/index.html (2026.5.3)
- [22] <https://www.youtube.com/shorts/sQwcf40kiaA> (2026.5.3)
- [23] <https://bbs1.rocketbbs.com/obs100imaten> (2026.5.3)
- [24] 黒田武彦, 2007, 公開天文台白書 2006, 日本公開天文台協会公開天文台白書編集委員会編(兵庫県立西はりま天文台公園), 7
- [25] 黒田武彦, 2008, 日本の天文学の百年, 日本天文学会百年史編纂委員会 編(恒星社厚生閣), 3-2-3
- [26] 澤田幸輝ほか, 2025, JAPOS 回報, 15, 15
- [27] 天文ガイド編集部編, 1971, 日本の天文台(誠文堂新光社)
- [28] <https://www.koukaitenmondai.jp/100th/history/index.html> (2026.5.3)
- [29] https://www.koukaitenmondai.jp/whitepaper/directory_2025/index.html (2026.5.3)
- [30] 澤田幸輝, 2024, 日本公開天文台協会第18回全国大会集録, 24
- [31] 澤田幸輝ほか, 2024, 日本公開天文台協会第18回全国大会集録, 141

The 100th Anniversary Project for Public Astronomical Observatories by the Japan Public Observatory Society

Atsushi MIYAMOTO¹, Koki SAWADA² and Tatsuki YONEZAWA³

¹Tottori Saji Astro Park, 1071-1 Takayama, Saji-cho, Tottori-shi, Tottori 689-1312, Japan

²Faculty of Economics, Setsunan University, 17-8

Ikeda-Nakamachi, Neyagawa, Osaka 572-8508, Japan

³Kimino Town Misato Observatory, 180 Matsugamine, Kimino-cho, Kaise-gun, Wakayama 640-1366, Japan

Abstract: In 2026, Japan's public astronomical observatories will mark the centennial of Kurashiki Observatory, founded in 1926. This article introduces the historical significance of this milestone and outlines initiatives by the Japan Public Observatory Society, including the official slogan and logo, certified events, social media outreach, observing campaigns, and a nationwide simultaneous observing event. It also presents efforts to reexamine historical studies and develop online timelines and databases, celebrating the past and future of public astronomical observatories.